

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	自然と都市が共生する学都仙台再編プログラム		
(2) 実施団体名	仙台商工会議所	(3) 対象地域	宮城県仙台市青葉区(仙台都心部・青葉山地域)
(4) 代表団体名	仙台商工会議所	(5) 推薦団体名	仙台市
(6) 実施した取組の内容	取組①	社の都発見・発信プログラム	
	実施主体	仙台商工会議所(東北大学、NPO法人都市デザインワークス、日本政策投資銀行東北支店、仙台市と連携)	
		当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<p>① 実施内容:「社の都まちづくり広場」の開設・運営</p> <p>・実施時期: オープニング4日、常設展7日・7日</p> <p>・実施場所: せんだいメディアテーク、仙台商工会議所会館、東北大学さくらホール</p> <p>・取組の目的: 仙台を他方面からアプローチしたパネルの展示を中心とし、トークセッションや入場者たちの意見交換といった情報の蓄積および発信を行う</p>	<p>① 実施内容:「社の都まちづくり広場」の開設・運営</p> <p>・実施時期: オープニング(10月27日(月)、28日(火)、29日(水)、30日(木))および3月2～6日と9～13日(予定)</p> <p>・実施場所: せんだいメディアテーク、仙台商工会議所会館、東北大学さくらホール(予定)</p> <p>・取組の結果: 元気再生事業の取組みをまちづくり関係者および一般市民に周知した。オープニング期間中延べ680名が東北大学新キャンパス構想、青葉山ツーリズム、商業動向、仙台の観光などのパネルを見学した。また10月27日(月)は、「兵の跡・青葉城と最先端キャンパスツーリズム計画」、「社の都仙台でのキャンパス構想-単科の教員養成大学としてできること-」、「タウンとガウン-地域の期待-」のテーマで基調講演を行い、計100名が参加した。取組みは新聞・情報誌に掲載された。</p>
		<p>② 実施内容:学都ワークショップの開催</p> <p>・実施時期: 10月から2月にかけて3回開催</p> <p>・実施場所: (記載なし)</p> <p>・取組の目的: 多様な主体の参加により自然と共生する学都仙台の都市像を構想するための諸課題について討議する</p>	<p>② 実施内容: 多様な主体の参加による連続ワークショップ「社の都まちづくりワークショップ」の開催</p> <p>・実施時期: 連続する3日間に3つのセッション。2月17日(火)、18(水)、19(木)(予定)</p> <p>・実施場所: エルパーク仙台スタジアムホール(14ビル6階)</p> <p>・取組の結果: それぞれのセッションのテーマに応じて、行政関係者、専門家、地元製造業者、経済団体関係者、NPO団体等の多様な主体が参加する。10月末に行った「まちづくり講演会」の幾つかのテーマを発展・深化させるための場とする(予定)。</p>
		<p>③ 実施内容: プロジェクトを連携させた事業手法の導入方策の検討</p> <p>・実施時期: 10月から2月にかけて3回開催</p> <p>・実施場所: (記載なし)</p> <p>・取組の目的: 研究プロジェクトや自然保護といった種々の活動と連携関係を結びながら、公的補助を含めた事業手法の模索およびその実施に向けた組織体制を検討する</p>	<p>③ 実施内容: 事業方策検討班による検討作業</p> <p>・実施時期: 12月の事前打ち合わせ以降、主要メンバーにより適宜開催</p> <p>・実施場所: 日本政策投資銀行東北支店会議室、都市計画研究機構会議室</p> <p>・取組の結果(見込み): 学都仙台再編プログラムの主たる事業主体である東北大学と仙台市が中心となる事業推進組織と、来年度初頭に重点的に検討すべき課題について提案する。</p>
		<p>④ 実施内容: まちづくり講演会/討議の実施</p> <p>・実施時期: 4回開催。10月～2月</p> <p>・実施場所: (記載なし)</p> <p>・取組の目的: 一般市民に対して開かれたまちづくり講演会を開催し、都市像を構想する上での今日的課題の提起や問題認識の共有を図る。</p>	<p>④ 実施内容: まちづくり連続講演会の実施</p> <p>・実施時期: 連続する3日間。10月28日(火)、29日(水)、30日(木)</p> <p>・実施場所: せんだいメディアテーク一階オープンスクエア</p> <p>・取組の結果: 「精神・形」「文化芸術」「都市と自然」「技術と暮らし」「健康」「観光」をテーマとした6つの連続講演会・トークセッションでは、新たな都市像を構想する第一歩として都市に関わる事を様々な角度から取り上げて問題提起した。延べ470名が参加しフロアも含めた意見交換や問題認識の共有を行った。</p>
		<p>⑤ 実施内容: ガイドツアーコンペの開催</p> <p>・実施時期: 10月～1月</p> <p>・取組の目的: 市民の生活環境に対する意識を喚起するためまち歩きガイドツアー案を公募し、審査公表する。</p>	<p>⑤ 実施内容: ガイドツアーコンペの開催</p> <p>・実施時期: 10月応募開始、1月16日応募締切、2月5日(木)審査会</p> <p>・取組の結果(見込み): 応募件数60件。審査結果を仙台商工会議所ホームページ等で発表する(予定)。</p>
		<p>⑥ 実施内容: 新たな都市像の発信イベント</p> <p>・実施時期: 2月</p> <p>・実施場所: (記載なし)</p> <p>・取組の目的: 今年度成果を一般市民が共有することを目的として展示とシンポジウム等のイベントを開催する。</p>	<p>⑥ 実施内容: 「社の都まちづくり広場-報告会2009」の開催</p> <p>・実施時期: 2月25日(水)(予定)</p> <p>・実施場所: せんだいメディアテーク一階オープンスクエア</p> <p>・取組の結果(見込み): 今年度の活動報告と成果や課題・問題点、今後の進め方についての報告し、意見交換を行う。</p>
		取組②	青葉山キャンパスツーリズム
	実施主体	東北大学(仙台商工会議所、宮城教育大学(国連ESD認証拠点)、仙台市と連携)	
		当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<p>① 実施内容: キャンパスを活用した新たな観光ルートの提案および普及</p> <p>・実施時期: 9月(作成)</p> <p>・実施場所:</p> <p>・取組の目的: 東北大学が資産として所有している植物園・自然史標本館、食堂等の施設、青葉城址の史跡、周辺の自然林等を組み合わせた複数の観光ルートを設定する。ツーリズムマップを制作する。</p>	<p>① 実施内容: 青葉山まるまるマップの作成および頒布</p> <p>・実施時期: 8月～10月(作成)、10月～(頒布)</p> <p>・実施場所: こもれびカフェ、仙台市博物館、東北大学附属植物園、青葉の森緑地管理棟、宮城教育大学キャンパス、社の都まちづくり広場、仙台商工会議所などに設置・頒布</p> <p>・取組の結果: 2000部を印刷した。10月初旬のこもれびカフェ特設会場の開設以降、約2ヶ月の間に頒布完了した。</p>
		<p>② 実施内容: 青葉山ゲートウェイの設置・運営</p> <p>・実施時期: 10月～2月</p> <p>・実施場所: こもれびカフェ特設会場および青葉記念会館1階ロビー会場</p> <p>・取組の目的: 青葉山の自然・文化や青葉山キャンパスでの研究に関する情報を展示すインフォメーションセンターを設置する。</p>	<p>② 実施内容: 青葉山ゲートウェイ(青葉山における情報拠点)の設置・運営</p> <p>・実施時期: 10月～3月</p> <p>・実施場所: こもれびカフェ特設会場および青葉記念会館1階ロビー会場</p> <p>・取組の結果: こもれびカフェでは情報ラックおよびディスプレイを設置し、また週末限定の特別カフェメニューを提供した。青葉記念会館1階ロビーでは、青葉山の情報展示、東北大学工学部の歴史と研究展示を行った。</p>
		<p>③ 実施内容: 企画ガイドの実施</p> <p>・実施時期: 10月～2月(重点実施時期10月、11月)</p> <p>・実施場所: オリジナルポイントガイド5回、ガイドツアー3回、</p> <p>・取組の目的: 青葉山の新たな魅力を一般市民に提供するためのガイドツアーイベントを企画・実施し、さまざまな団体や活動との連携でポイントガイドツアーも行う。</p>	<p>③ 実施内容: 青葉山企画イベントの実施</p> <p>・実施時期: 10月から11月</p> <p>・実施場所: 青葉山東キャンパス、宮城教育大学キャンパス、広瀬川河畔、東北大学川内キャンパス</p> <p>・取組の結果: 独自イベントを計5回開催した。またこもれびカフェ特設会場において学生ボランティアによる週末ガイドを計13日実施した。また関連して行われたイベントを通じて、宮城教育大学においても青葉山における情報拠点としての機能強化を目指す方針が確認された。</p>
		<p>④ 実施内容: ホームページ作成</p> <p>・実施時期: 10月～12月</p> <p>・取組の目的: 上記①および②の活動内容や構想を一般市民に対して発信をするため</p>	<p>④ 実施内容: ホームページ作成</p> <p>・実施時期: 10月初旬(一部立ち上げ)～3月まで(イベント情報の更新)</p> <p>・取組の結果: アンケートによると、秋の青葉山企画イベント参加者の中にはHPを通じて情報を得た方もおり、WEBを通じた情報発信の効果が確認出来る</p>
		<p>⑤ 実施内容: 新たな移動手段導入の試行実施</p> <p>・実施時期: 11月～12月</p> <p>・実施場所: 6kmの巡回ルートに2台・4日間(平日および休日)の運行を実施</p> <p>・取組の目的: 上記の①で設定した観光ルートの効果的な利用を図るため、環境共生技術を活用したエコバス等の新たな移動手段の運行実験を行い、導入を検討。環境問題にも配慮した移動手段とルートの改良を考慮する。</p>	<p>⑤ 実施内容: 市内周遊観光バスと連携した周遊企画「青葉山まるまるツアー」の試行実施(予定)</p> <p>・実施時期: 2月26日(木)、27日(金)(予定)</p> <p>・実施場所: 青葉山キャンパス</p> <p>・取組の結果(見込み): 約40人(予定定員)が参加。実施後のアンケートを通じて、既設の市内観光循環バス「ループル」と連携した青葉山キャンパス観光の可能性、実現性を確認する(見込み)。</p>

(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担		取組の実施を踏まえた反省点		
	<p>・本プログラムは、仙台商工会議所が全体を統括し、実施するとともに、「青葉山キャンパスツーリズム」については、東北大学が統括主体となって実施する。</p> <p>・「社の都発見・発信プログラム」は、仙台商工会議所が主体となり、東北大学が従となって、仙台市の協力を得て推進するほか、市民との協働の窓口としてNPO法人都市デザインワークスと、事業手法の検討のパートナーとして日本政策投資銀行東北支店と連携し、産官学NPO等の多様な主体の参画を図る。取組①をとりまとめる会議体として、(仮称)学都仙台懇談会(座長 渡辺定夫(株式会社都市計画研究機構代表取締役))を設置する。</p> <p>・「青葉山キャンパスツーリズム」は、主に東北大学が主体となり、仙台商工会議所が従となって、仙台市の協力を得て推進するほか、自然との共生を重視する観点から、国連が推進する「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」の国内認証拠点機関となっている宮城教育大学と連携する。取組②をとりまとめる会議体として、(仮称)青葉山キャンパスツーリズム事務局(座長 内田龍男(東北大学工学研究科研究科長))を設置する。</p>		<p>・取組全体の実務を統括し元気再生事業を軌道にのせるための実務中核組織として、東北大学、仙台商工会議所、仙台市の実務代表者および担当者により構成する、「元気再生事業推進本部」を設置した。そのもとに取組み単位ごとに作業班を設け実施にあたった。</p> <p>・元気再生事業の所記の目的を達成するために、関係諸機関の実務代表者による協議の場として「仙台元気再生連絡協議会」を開設し、「元気再生事業を契機とした地域再生の諸方策を総合的に協議する場」とした。</p> <p>取組① 社の都発見発信プログラムに関しては、仙台商工会議所と東北大学が中心となり行った。まちづくり広場における講演会やワークショップでは、都市像を構想するために東北大学をはじめ地元の様々な研究・教育分野の専門家が参画し中心的な役割を担った。事業方策の検討においては、主たる事業主体と想定される東北大学および仙台市の実施担当者をはじめ、日本政策投資銀行東北支店の担当者など都市整備、金融関係の専門家の参画を得て議論を重ねた。ガイドツアーコンペでは、仙台商工会議所が核となりNPO法人の協力を得て企画運営を行った。オープニングイベントや報告会では、仙台商工会議所と東北大学が共同で実施した。</p> <p>取組② 青葉山ツーリズムに関しては、東北大学工学研究科と宮城教育大学が中心となり行った。いずれの機関も近年、一般市民に開放されたキャンパスの整備を独自に進めてきたが、今回の事業を通じて連携関係を強め、大学の枠を越えた教官および学生有志のグループにより各種のイベントが成立した。また青葉山におけるエコバス運行の検討を通じて、地球環境に配慮した次世代の移動手段を開発するための研究会(構成員:東北大学および社団法人みやぎ工業会の関係者)が発足した。</p>		
(8)取組により得られた成果	○成果1→	東北大学のキャンパス移転に伴う学都仙台の再編に向けた産官学NPOの協働組織の構築			
		H19 未整備		H20(当初予定していた目標)	
			次年度当初の組織化に向け、産官学NPOの各分野からの参加の確保		
		H20(実際に得られた成果)			
		<p>・「元気再生事業を契機とした地域再生の諸方策を総合的に協議する場」として、実施主体(仙台商工会議所、東北大学、宮城教育大学、仙台市、日本政策投資銀行東北支店)と宮城県の代表者、および外部の学識経験者からなる「仙台元気再生連絡協議会」を設置した。</p> <p>・また取組み単位ごとに設けた作業班やワークショップにおいては、研究教育機関の専門家、NPO法人の代表者、金融機関、製造業団体などが参画した。</p>			
	○成果2→	青葉山キャンパス一体の観光入込客数の増加			
	H19 10000人		H20(当初予定していた目標) 11000人(1000人の増加)		
	H20(実際に得られた成果)				
	<p>・青葉山キャンパス一体の観光入り込み客数は、2008年10月から12月まで昨年度の同時期とほぼ同程度であり、目標の1割増に至ったとはいえないと予測される。(平成19年実績の「10000人」は青葉山に位置する「るーぶる仙台」(市内周遊観光バス)の二つのバス停(青葉山植物園ゲート前および東北大学理学部自然史標本館前)の降客数=A)(8384人(2007年4月～11月実績値))から概算したものである。A値を2007年10月から12月と2008年10月から12月の2期間で比較すると、それぞれ2404人と2430人であり、ほぼ同数であった(仙台市交通局資料))</p> <p>・とはいうものの、今年度秋季、青葉山地区における独自の企画により、約200名の参加者を動員した。(「自働車の過去・未来館開所式」約180名、「魚類の視点で広瀬川を考える」13名など)</p> <p>・また、青葉山エリアの公的施設を中心に設置した「青葉山まるまるマップ」2000部はおおよそ2ヶ月間で一般市民に頒布完了し、青葉山紹介のパネルを展示した「社の都まちづくり広場」の展示解説ブースには(10月末の4日間、せんだいメディアテークにて実施)には約680名が来訪しており、今後青葉山地区への入り込み客を増加させる要因として期待することが可能である。</p>				

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社の都発見発信プログラムに関しては、今年度は都市像を構想するための都市計画の基本的な条件について多分野の専門家の参加により問題提起し、討議を重ねた。 ・来年度以降、事業推進方策班による検討事項に関して、事業主体による意思決定や事業主体間の調整を促進する必要がある。これらの調整に並行して、専門家の参加と討議、および一般市民への普及を通じて、持続可能な都市像へと発展させる必要がある。 ・キャンパスツーリズムに関しては、来年度以降この取組を展開していくための基礎となる青葉山全域の概要調査を行い、その知見に基づき、新たな観光ルートを提案したマップを作成するに至った。立案した企画は秋以降のものに限定されており、四季を通じた継続的な楽しみ方を提供してみたい。またキャンパスツーリズムの取組を持続可能なものとするためには、その運営組織が自立するための基盤を確立する必要がある。 ・一般市民への本取組の周知は徐々に進みつつあるが、必ずしも十分ではない。今後は、マスコミと積極的に連携する、あるいは本事業の情報発信拠点を常設的に市中に設置するなどして、一般市民に対する本事業の取組の周知を強化する必要がある。 							
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p style="text-align: center;">今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>1.産学官NPO等の協働組織の設立(平成21年度4月頃)と学都仙台アクションプログラムの策定(平成21年度～)</p> <p>新たな都市像の具体化に向けた組織を設立する。青葉山・都心地域における各種プロジェクトを推進するための「学都仙台再編アクションプログラム」を作成し、市民理解の醸成、関係機関との調整を行う。</p> </td> <td style="width: 70%; padding: 5px;"> <p>1社の都発見発信プログラムの拡充と学都仙台アクションプログラムの策定(平成21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 仙台元気再生連絡協議会(仙台商工会議所、東北大学、宮城教育大学、日本政策投資銀行東北支店、仙台市、宮城県などの参画を想定) ・内容: 協議会方式のまちづくり交付金の活用等を含めた具体的な事業の導入に向けた協議の場を設置し、関係機関の調整を図り、新たなプロジェクトの連鎖を生み出していく。これらの事業連関の前提となる都市像を多分野の専門家の討議を通じて総合的かつ包括的に構想する。また、これらの成果を一般市民に情報発信するために市民参加のイベント等を開催する。 ・目的: 学都仙台の都市像を構想し、東北大学のキャンパス再編成に伴う諸々の事業の有機的な連関を促す。また、都市像を構想し、関係機関の調整を図り、一般市民へ情報発信するために、産学官NPOが中心となる。官がこれをサポートする「(仮称)仙台都市センター」の設立を目指す。 <p>制度: 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1000万円)</p> </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> <p>2.青葉山キャンパスツーリズムのコンテンツ等の拡充(平成21年度)</p> </td> <td style="padding: 5px;"> <p>2.青葉山キャンパスツーリズムの通年コンテンツの拡充と管理運営機構「青葉山まるまるサポート」の試行(平成21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 青葉山キャンパスツーリズム推進協議会(事務局: 東北大学工学研究科および宮城教育大学) ・内容: 青葉山キャンパスツーリズムの企画立案によりコンテンツの拡充を図る。また、青葉山地区に位置する様々な組織、施設の活動を調整・総括し、区域一体的な観光の促進、様々な世代が参加可能な環境教育の提供や自然環境のモニタリングなどを行うための組織を試行し、青葉山キャンパスツーリズムを継続的に行うための基礎的な条件を明らかにする。また情報拠点を都心部に設置し、青葉山キャンパスツーリズムの普及に努める。 ・目的: 仙台の新しい観光拠点として青葉山地区を運営してゆくために、総合的なエリアマネジメント方策を検討し、一部試行する。 <p>方元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1200万円)</p> </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> <p>3.自然と科学の共生を目指した新たな研究開発、新産業創出の推進(当初、23年度以降の展開(第2期)として記載)</p> </td> <td style="padding: 5px;"> <p>3.環境共生技術を活用したエコバス等の新たな移動手段の研究・開発(平成21年度以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 東北大学工学研究科[企画、基礎的技術の研究開発]および社団法人みやぎ工業会(実証実験、製品開発)からなる研究組織 ・内容: 地元製造業者の技術力と東北大学の先端的技術を用いたエコバス等移動手段の商品開発と普及 ・目的: 地場産業と接続した環境共生時代の新産業の創出と基礎的技術の研究開発の活性化。延いては、自然環境と科学技術が融合にした近未来型市街地モデルを象徴するパイロットプロジェクトとして青葉山エリアのキャンパス周遊バスの常設化を目指す。 <p>制度: 活用を希望する制度: 未定</p> </td> </tr> </table>		<p style="text-align: center;">当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>1.産学官NPO等の協働組織の設立(平成21年度4月頃)と学都仙台アクションプログラムの策定(平成21年度～)</p> <p>新たな都市像の具体化に向けた組織を設立する。青葉山・都心地域における各種プロジェクトを推進するための「学都仙台再編アクションプログラム」を作成し、市民理解の醸成、関係機関との調整を行う。</p>	<p>1社の都発見発信プログラムの拡充と学都仙台アクションプログラムの策定(平成21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 仙台元気再生連絡協議会(仙台商工会議所、東北大学、宮城教育大学、日本政策投資銀行東北支店、仙台市、宮城県などの参画を想定) ・内容: 協議会方式のまちづくり交付金の活用等を含めた具体的な事業の導入に向けた協議の場を設置し、関係機関の調整を図り、新たなプロジェクトの連鎖を生み出していく。これらの事業連関の前提となる都市像を多分野の専門家の討議を通じて総合的かつ包括的に構想する。また、これらの成果を一般市民に情報発信するために市民参加のイベント等を開催する。 ・目的: 学都仙台の都市像を構想し、東北大学のキャンパス再編成に伴う諸々の事業の有機的な連関を促す。また、都市像を構想し、関係機関の調整を図り、一般市民へ情報発信するために、産学官NPOが中心となる。官がこれをサポートする「(仮称)仙台都市センター」の設立を目指す。 <p>制度: 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1000万円)</p>	<p>2.青葉山キャンパスツーリズムのコンテンツ等の拡充(平成21年度)</p>	<p>2.青葉山キャンパスツーリズムの通年コンテンツの拡充と管理運営機構「青葉山まるまるサポート」の試行(平成21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 青葉山キャンパスツーリズム推進協議会(事務局: 東北大学工学研究科および宮城教育大学) ・内容: 青葉山キャンパスツーリズムの企画立案によりコンテンツの拡充を図る。また、青葉山地区に位置する様々な組織、施設の活動を調整・総括し、区域一体的な観光の促進、様々な世代が参加可能な環境教育の提供や自然環境のモニタリングなどを行うための組織を試行し、青葉山キャンパスツーリズムを継続的に行うための基礎的な条件を明らかにする。また情報拠点を都心部に設置し、青葉山キャンパスツーリズムの普及に努める。 ・目的: 仙台の新しい観光拠点として青葉山地区を運営してゆくために、総合的なエリアマネジメント方策を検討し、一部試行する。 <p>方元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1200万円)</p>	<p>3.自然と科学の共生を目指した新たな研究開発、新産業創出の推進(当初、23年度以降の展開(第2期)として記載)</p>	<p>3.環境共生技術を活用したエコバス等の新たな移動手段の研究・開発(平成21年度以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 東北大学工学研究科[企画、基礎的技術の研究開発]および社団法人みやぎ工業会(実証実験、製品開発)からなる研究組織 ・内容: 地元製造業者の技術力と東北大学の先端的技術を用いたエコバス等移動手段の商品開発と普及 ・目的: 地場産業と接続した環境共生時代の新産業の創出と基礎的技術の研究開発の活性化。延いては、自然環境と科学技術が融合にした近未来型市街地モデルを象徴するパイロットプロジェクトとして青葉山エリアのキャンパス周遊バスの常設化を目指す。 <p>制度: 活用を希望する制度: 未定</p>
<p style="text-align: center;">当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>1.産学官NPO等の協働組織の設立(平成21年度4月頃)と学都仙台アクションプログラムの策定(平成21年度～)</p> <p>新たな都市像の具体化に向けた組織を設立する。青葉山・都心地域における各種プロジェクトを推進するための「学都仙台再編アクションプログラム」を作成し、市民理解の醸成、関係機関との調整を行う。</p>	<p>1社の都発見発信プログラムの拡充と学都仙台アクションプログラムの策定(平成21年度～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 仙台元気再生連絡協議会(仙台商工会議所、東北大学、宮城教育大学、日本政策投資銀行東北支店、仙台市、宮城県などの参画を想定) ・内容: 協議会方式のまちづくり交付金の活用等を含めた具体的な事業の導入に向けた協議の場を設置し、関係機関の調整を図り、新たなプロジェクトの連鎖を生み出していく。これらの事業連関の前提となる都市像を多分野の専門家の討議を通じて総合的かつ包括的に構想する。また、これらの成果を一般市民に情報発信するために市民参加のイベント等を開催する。 ・目的: 学都仙台の都市像を構想し、東北大学のキャンパス再編成に伴う諸々の事業の有機的な連関を促す。また、都市像を構想し、関係機関の調整を図り、一般市民へ情報発信するために、産学官NPOが中心となる。官がこれをサポートする「(仮称)仙台都市センター」の設立を目指す。 <p>制度: 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1000万円)</p>							
<p>2.青葉山キャンパスツーリズムのコンテンツ等の拡充(平成21年度)</p>	<p>2.青葉山キャンパスツーリズムの通年コンテンツの拡充と管理運営機構「青葉山まるまるサポート」の試行(平成21年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 青葉山キャンパスツーリズム推進協議会(事務局: 東北大学工学研究科および宮城教育大学) ・内容: 青葉山キャンパスツーリズムの企画立案によりコンテンツの拡充を図る。また、青葉山地区に位置する様々な組織、施設の活動を調整・総括し、区域一体的な観光の促進、様々な世代が参加可能な環境教育の提供や自然環境のモニタリングなどを行うための組織を試行し、青葉山キャンパスツーリズムを継続的に行うための基礎的な条件を明らかにする。また情報拠点を都心部に設置し、青葉山キャンパスツーリズムの普及に努める。 ・目的: 仙台の新しい観光拠点として青葉山地区を運営してゆくために、総合的なエリアマネジメント方策を検討し、一部試行する。 <p>方元気再生事業の継続支援を希望(想定金額1200万円)</p>							
<p>3.自然と科学の共生を目指した新たな研究開発、新産業創出の推進(当初、23年度以降の展開(第2期)として記載)</p>	<p>3.環境共生技術を活用したエコバス等の新たな移動手段の研究・開発(平成21年度以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体: 東北大学工学研究科[企画、基礎的技術の研究開発]および社団法人みやぎ工業会(実証実験、製品開発)からなる研究組織 ・内容: 地元製造業者の技術力と東北大学の先端的技術を用いたエコバス等移動手段の商品開発と普及 ・目的: 地場産業と接続した環境共生時代の新産業の創出と基礎的技術の研究開発の活性化。延いては、自然環境と科学技術が融合にした近未来型市街地モデルを象徴するパイロットプロジェクトとして青葉山エリアのキャンパス周遊バスの常設化を目指す。 <p>制度: 活用を希望する制度: 未定</p>							

◆主な実施取組の内容◆

取組①杜の都発見・発信プログラム

実施主体: 仙台商工会議所

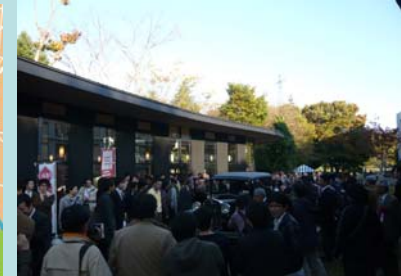
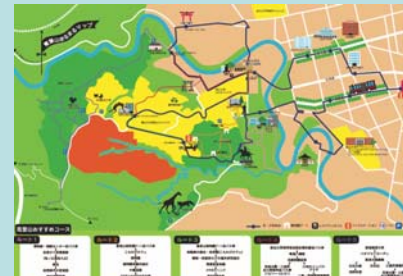
実施内容・結果: 「杜の都まちづくり広場」(オープニング・常設展示・報告会)の開設
・都市像の基礎的条件を提示する「まちづくり連続講演会」の実施
・産学官NPO等の多様な主体の参加による連続ワークショップの開催
・プロジェクトを連携させた事業手法の導入方策の検討
・まち歩きガイドツアーコンペ「杜の都歩いてツアー」の実施



取組②青葉山キャンパスツーリズム

実施主体: 東北大学

実施内容・結果: 青葉山全域を対象とした「青葉山まるまるマップ」の作成・頒布
・現地インフォメーションセンター「青葉山ゲートウェイ」の設置
・青葉山ガイドイベントの企画・実施
・「まるまる探検隊」ホームページの開設
・周遊観光バス企画切符「青葉山まるまるチケット」の試行実施



◆取組実施による成果・今後の展開◆

成果 : 産学官NPO等による協同組織の基礎づくりを行い、それらを総括する会議体「仙台元気再生連絡協議会」を設置した。
自然と都市が共生する新たな都市像に対する一般市民の関心を喚起し、仙台市民の新しい観光拠点として「青葉山」を周知した。

今後の展開 : 学都仙台アクションプログラムの策定(平成21年度~22年度)と一般市民との関係づけ
青葉山キャンパスツーリズムの通年コンテンツの拡充(平成21年度)とエリアマネジメント組織の一部試行(平成21年度)